

取組の目的・背景

・稚内市恵北に昭和12年に建設された旧海軍大湊通信隊稚内分遣隊幕別送信所庁舎。通称「赤れんが通信所」は太平洋戦争時、真珠湾攻撃を指示する暗号電文が中継されたといわれています。敗戦後、昭和30年代まで米軍キャンプがあり、地元との交流もありましたが、その後は国の管理となり、平成18年に稚内市が譲り受けました。

取組の内容

・日本最北端にある赤れんがの歴史的にも貴重な建築物を残し、戦争の悲劇を後世に語り継ぐためにも、この通信所を修復し、存続する活動を行っています。

取組の成果

・稚内市歴史・まち研究会が主体となり春と秋に開催する一般公開や、冬の「平和祈念の灯り」や「堅雪散策」などで広く市民に知られるようになりました。2019年には太陽財団の助成団体に選ばれ、1千万円の助成金でB棟の外壁補修を行い、宗谷支部でもレンガの積直しを行いました。2020年にはクラウドファンディングで集まった100万円と市民からの寄付200万円でB棟の屋根や望楼の修復工事を行いました。

取組の課題と期待

・3棟からなる赤レンガ通信所ですが、修復のほぼ終わっている1番小さいC棟、1番老朽化が進んでいて現在修復を進めているB棟、そして1番大きいA棟は手付かずのままとなっています。B棟の修復にもまだまだ費用が掛かり、A棟は更に掛かります。放っておくと朽ち果てるので修復を先行していますが、最大の課題は修復が終わった後の活用方法が決まっていないということです。

建築士としての関わり

・2018年に支部創立65周年を記念して敷地に桜を植樹し、毎年春に桜の木と赤れんが通信所を眺めながらジンギスカンに舌鼓を打つ「桜の親睦会」を開催しています。2019年の修復工事では、過去に行われたレンガ造の修復方法について稚内市歴史・まち研究会に情報を提供し、建築士会でも実際にレンガの積直しを行ったほか、函館で開催された全国大会の歴史まちづくりセッションで活動の発表もしています。



URL

<https://rekishi-machi.hatenablog.com/>

QRコード

